

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101397		
法人名	有限会社 ナナカマド		
事業所名	グループホームななかまど		
所在地	青森県青森市第二問屋町1丁目7-14		
自己評価作成日	令和5年5月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社旗福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年6月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域に住むひとりとして、役割を持ち、安心して生活できる家を目指す」の理念を持ち、入居者様一人ひとりの居室を「家」、食堂を「公共の場」と考え、安心して生活できる環境作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは個々の居室を「家」と考え、利用者が自宅で過ごしていた時と同じように、自分らしく安心して生活していただける環境作りを支援している。職員は利用者一人ひとりとゆっくり話ができる時間を大切に、個々の特徴や生活パターンを把握した上で、職員全員が共通認識を持って支援に取り組んでいる。
また、認知症になっても地域に住む一人として役割を持ち、生活していただきたいとの思いを込めた理念を作成しているが、コロナ禍で地域との交流が難しい状況が続いたため、今後は状況を見極めながら少しずつ交流の機会を増やし、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に住むひとりとして、役割を持ち安心して生活できる家を目指す」という理念を持ち、支援をしている。理念は事務所のホワイトボードに貼り、職員は理解している。	利用者が地域と関わりながら、安心して生活できるようにとの思いを込め、ホーム独自の理念を作成している。職員は理念の意味を理解し、常に意識しながら、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域住民との交流の機会を作るように取り組んでいたものの、コロナ禍のため、現在は交流できていない。	ホームは令和元年に現在の場所に移転し、利用者と近隣の公園や商店に出かける等して、地域に馴染もうと取り組んでいたが、コロナ禍で外出が難しい状況になった。今後は町内会とのつながりを通して、地域住民との関わりを持てるよう、働きかけていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民には交流の中で理解していただくように働きかけている。今後は、運営推進会議を利用して働きかけていきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者や交流のあるグループホームからアドバイスをいただき、計画したものの、運営推進会議は実施していない。	ホーム移転後はコロナ禍もあり、運営推進会議開催の準備が整っていない状況である。今後はまずメンバーを確保し、開催に向けて取り組んでいきたいとの考えである。	早いうちに運営推進会議のメンバーを確保し、会議を開催することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	業務の中での質問や相談の際は電話をする等、指導をいただいている。	市の担当課とは電話やファックス、メール等を利用して情報交換をしたり、質問や相談をして、日頃から協力関係を築くように心がけている。運営推進会議の開催に関しても、書面作成等のアドバイスをいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関等の施錠をしており、身体拘束は行わない姿勢でケアに取り組んでいる。3ヶ月に1回、身体拘束等の適正化に向けた基本方針を確認している。また、ホーム内研修を通して、身体拘束をしないケアを心がけている。	身体拘束適正化委員会を開催し、ホームの現状を確認しながら身体拘束に関する理解を深め、年2回程度、内部研修も行っている。職員は身体拘束は行わない姿勢でケアに取り組む、利用者一人ひとりの特徴やパターンに合わせたケアを工夫しながら対応している。また、やむを得ず拘束が必要となった場合に備え、同意書や経過観察の記録様式を準備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から職員同士で話し合っている他、事務所ですべていつでも確認できるようにしている。また、ホーム内研修を通して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様もいらっしゃるため、普段から学ぶ機会を持ち、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に、入院時や事故があった場合の対応や看取りに関する説明をして、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見や要望は、関わりの中で察するように心がけている。ご家族様の面会時や電話連絡時に意見をいただき、対応している。申し送りや連絡ノートを利用し、職員全員が理解している。	職員は利用者との日々の関わりの中から、意見や要望の把握に努めている。また、面会や電話の際に、家族等に利用者の暮らしぶりをこまめに報告し、いただいた意見は申し送り等で全職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者がホームを来所した際、職員とコミュニケーションをとり、直接意見を聞く環境を作っている。	朝・夕の申し送りや業務の合い間を利用し、職員同士で意見交換を行うことができる環境を整えている。また、管理者にも気軽に相談ができ、出された意見はケアに反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりの努力や実績を把握している。また、職員の意見をできる範囲で反映し、より良い職場環境を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修の実施を継続している。ホーム外研修については、コロナの状況を考えながら検討していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム等と電話での意見交換は行っている。コロナの状況を考えながら、交流を続けていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談の際、入居者様やご家族様より情報をいただき、安心していただけるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の情報収集の際、ご家族様の不安な事や要望を理解し、支援することを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面会や関係機関からの情報等により、必要な支援を検討し、入居者様やご家族様と話し合い、対応するように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に生活をする」姿勢を忘れず、支援するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等の連絡を利用し、ご家族様の負担にならないように配慮しながら、一緒に支援していくように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍もあり、友人や知人の面会はみられないものの、ハガキや電話を利用し、馴染みの関係を継続できるように心がけている。	コロナ禍においても、感染状況や利用者一人ひとりの状況に合わせ、できる限り面会できるように取り組んでおり、風除室でガラス戸越しの面会や、玄関から入ってすぐの廊下の空きスペースにテーブルを用意して面会する等、工夫をしながら、馴染みの関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間人間関係に配慮し、食堂の席を工夫したり、ソファ等を利用して、交流できる場所作りを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様やご家族様の希望があった際、電話等を利用して相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアを通して、入居者様の思いや意向の把握に努めている。また、ご家族様からの情報を基に検討することを心がけている。	入浴時に話を聞いたり、一人で居室にいる時の表情を観察している他、日記に思いを書いてもらう等、利用者一人ひとりに合った対応を検討し、思いの把握に努めている。家族からは電話連絡時や面会時に情報収集し、申し送りや連絡ノート等を利用して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や入居者様との関わりを通して、生活のペースや入居者様が安心して生活できる環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の個人記録、関わりを通して、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は入居者様の意見や希望を取り入れるように心がけている。状態等に変化があった際は見直し、作成するように心がけている。	日々の関わりの中で利用者の意見や希望を聞けるように働きかけている他、面会時や電話時に家族の意見を聞いている。また、職員や訪問看護師等の意見も参考にしながら、個別の介護計画を作成しており、入居後間もない等の個々の状況に合わせ、実施期間を設定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやカンファレンス等を通して、職員の気づきや工夫を実践して結果を共有することで、見直しにつなげていくように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況やご家族様からの要望に対し、可能な範囲で対応するように検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域の公民館を利用したり、他グループホームとの交流もあり、状況をみて交流を再開したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様が希望される医療機関の受診を心がけ、ご家族様の協力いただきながら対応している。	家族が受診に付き添う場合でも職員が同行し、日々の状況を主治医に伝えている。また、定期外受診や他科受診が必要になった時も、利用者や家族の希望に沿って、迅速に適切な受診ができるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院時や往診時、または主治医への電話連絡を利用して状況報告を確実にし、指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者やご家族様と連絡を取り合いながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応は行っていないが、入居者様やご家族様の要望に応えられるよう、介護計画の見直しや他事業所への紹介等を行っている。	重度化や終末期の対応は行わない旨、ホームの方針を入居時に利用者や家族に説明している。また、日常的な健康管理や体調変化時の対応について、主治医や訪問看護師と連携を図りつつ、できる限り、利用者や家族の要望に沿った対応ができるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の申し送りで確認したり、マニュアルの作成等、主治医からの指導をいただいて対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しているが、地域との協力体制は築けていない。	移転後初めての避難訓練には消防署の立ち合いがあり、以後は年2回、利用者と職員とで訓練を行い、2階からの避難方法について試行錯誤を繰り返している。設備点検は業者委託で行い、災害発生時に備えて、飲料水や食料品、毛布、カイロ等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の言動を否定しない言葉がけをするよう、心がけている。守秘義務や個人情報の取り扱いに関するマニュアルを利用し、努めている。	日頃から言葉遣いには十分に注意を払い、利用者一人ひとりの特徴やベースを把握して、職員全員が同じ対応ができるように情報を共有している。また、接遇や守秘義務、個人情報の取り扱い等に関するマニュアルを作成し、年1回は研修を行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりの中で思いや希望を理解し、自己決定できるような場面作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務等を優先しないようにし、入居者様のペースに合わせた支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回程度の散髪や、希望に合わせて髪染めの手伝いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや苦手な物に配慮し、摂取しやすいように工夫している。また、季節を感じていただけるような献立を心がけている。入居者様と一緒に、食事の盛り付けや後片付けを行っている。	系列施設の栄養士が作成した献立を基に、利用者の好みや禁忌食等に配慮した献立を作成している。また、代替食を用意したり、身体状況に合わせた食事形態を工夫する等し、全ての利用者が適切に栄養を摂取できるように食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせ、摂取しやすいように工夫し、主治医の意見を取り入れながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	医師から指導をいただき、毎食後に口腔ケアを行っている。入居者様一人ひとりに合わせて、見守りや介助等の対応をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや尿意等を見逃さないように心がけ、対応するように努めている。	日々の排泄状況を記録して、おおまかなパターンを把握すると共に、排泄サインの観察を行い、できるだけトイレで排泄できるように支援している。また、介助方法や排泄用品等に関しては、利用者一人ひとりの状況を細かく見極め、家族と相談しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を考えたり、運動や体操を行っている。また、牛乳やヨーグルト等の乳製品の摂取等、対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴日とし、対応している。1対1の介助を基本とし、身体状況に応じて職員二人で介助している。	利用者の生活パターンや習慣を把握し、個々の希望も取り入れて、週2回は入浴できるように支援している。ゆっくり入浴してもらうため、一日の入浴を4名程度とし、基本的に1対1の同性介助としているが、身体状況等によっては職員二人で介助し、安全に入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの環境を考え、ベッドの高さや位置、布団等、安心して睡眠できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報や薬剤師の説明、主治医の指示等により、確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で食器拭きや掃除等の手伝いをさせていただき、役割を持っていただくように心がけている。体操や散歩等を行い、楽しみや気分転換につながるように対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため、外出を控えていただいているが、通院やホーム周辺の散歩、近くの公園への外出等を行っている。中庭のベンチ等も利用している。	コロナ禍で気軽に外出することが難しいため、通院の機会を利用して買い物をしたり、ホーム周辺の散歩等を行っている。桜の季節には数名ずつドライブをして、車に乗ったまま花見をしてもらう等、できるだけ利用者が楽しめるように支援している。また、温かい季節には中庭にブランコやベンチを設置し、利用者が気分転換できるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様自身での金銭の管理が困難な方は、預り金として事務所において管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知人からの電話等に希望があれば、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や温度等に気をつけている。また、入居者様同士、仲の良い方々と交流を持つ場面が増えるように配慮している。	共有スペースの壁には季節に合わせた手作りの作品が飾られている。また、利用者同士の相性等に配慮して食卓テーブルを配置している他、廊下にもソファを設置し、利用者がゆっくりと寛げる環境作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の他、椅子やテーブル、ソファ等を準備しており、読書や交流ができるよう、環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの物を持って来てもらうように働きかけている。自宅の自分の部屋と同じような居室作りに努めている。	これまで暮らしていた場所と同じような環境を作り、利用者に安心して過ごしていただけるよう、馴染みの物の持ち込みをお願いしている。また持ち込みが少ない場合には利用者と相談しながら、写真や手作りの作品を飾る等し、一人ひとりに合った居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所に目印を工夫したり、食堂の椅子に入居者様一人ひとりの目印を工夫している。		